

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成24年度病害虫防除情報第9号

果樹カメムシの発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

ツヤアオカメムシの発生量が多くなっています。 今後の発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。

1. 作物名 果樹全般
2. 病害虫名 果樹カメムシ（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

3. 発生状況

(1) ツヤアオカメムシ

県内5か所に設置している予察灯のツヤアオカメムシの誘殺数はおおむね平年並で推移しているが、県内3か所に設置しているカメムシ類フェロモントラップへの誘殺数が9月下旬頃から急増している。特に10月第1半旬には都農町①で25頭（平年13.6頭）、都農町②で143頭（平年76.2頭）誘殺された（図1）。

(2) チャバネアオカメムシ

チャバネアオカメムシの誘殺数は、予察灯で平年並、フェロモントラップでは平年並からやや少ない状況で推移している（図2）。

(3) 一部の園でカメムシ類の飛来が確認されている。

(4) 全国的に果樹カメムシの発生が多く、10月12日現在で36都府県が注意報を発表している（九州では福岡県、大分県及び鹿児島県）。

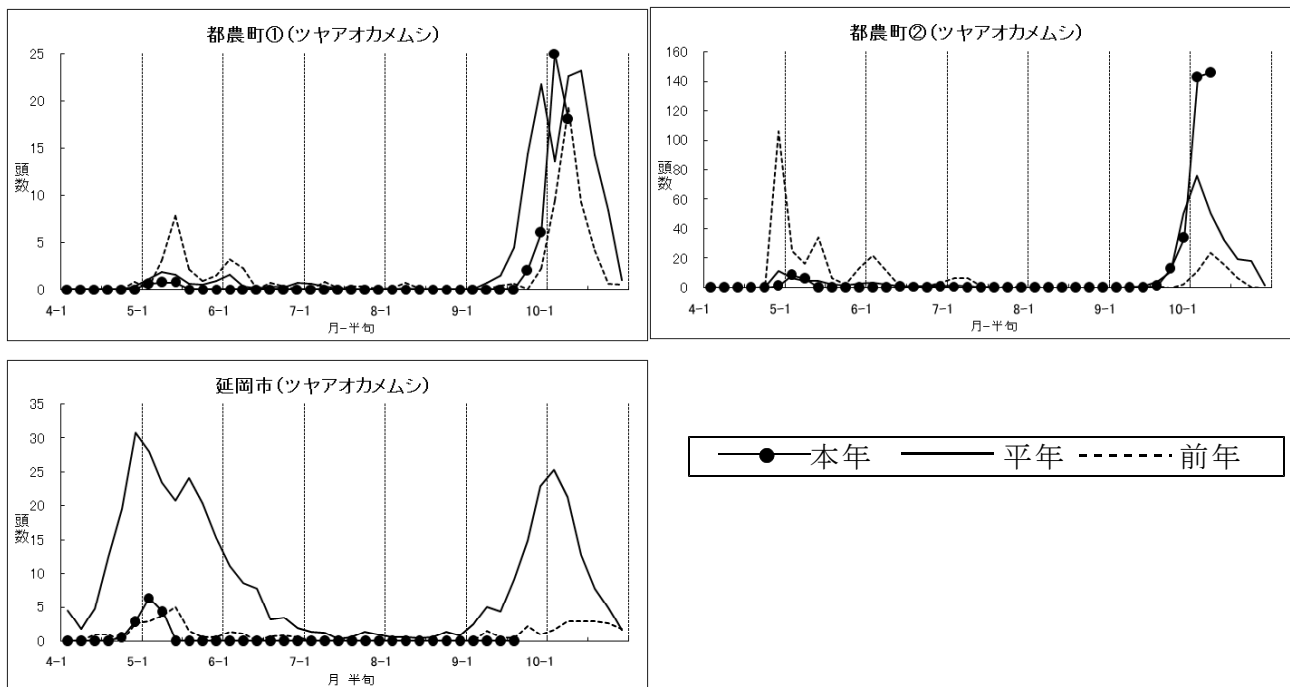


図1 フェロモントラップにおけるツヤアオカメムシ誘殺状況

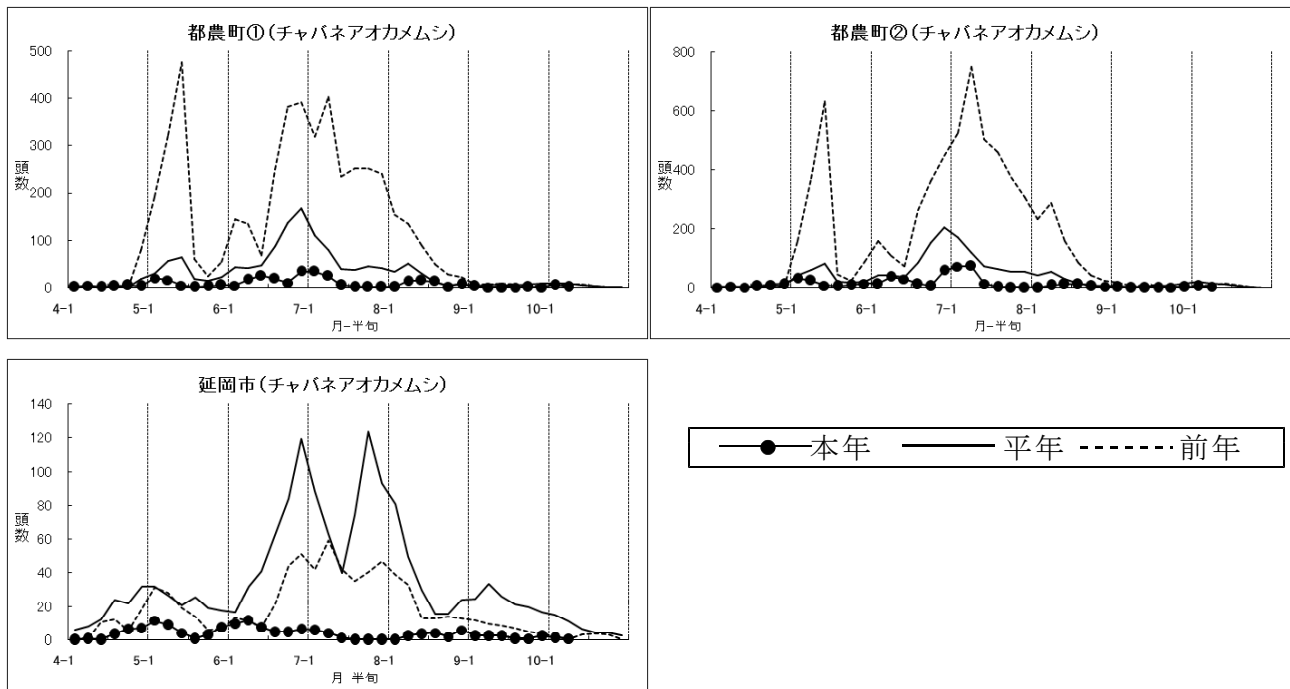


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺状況

4. 防除上の注意

- (1) 飛来時期や飛来量は園地によって異なるため、園内外の見回りを徹底し、飛来が見られたら直ちに防除を実施する。
- (2) 果樹園に侵入したカメムシは集合フェロモンで同種を大量に誘引し被害を及ぼすおそれがあるので十分注意する。
- (3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。合成ピレスロイド系薬剤は多用すると天敵等を殺虫し、ハダニ類等の発生を助長するため連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。
- (5) 台風通過後は果樹園への飛来が急に増加することがあるので特に注意する。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 農薬の使用については、ラベルの表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守する等厳重な注意を払うとともに危害防止に努める。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター へんみ
邊見

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp